

農大祭

毎年盛況な農大祭

平成26年度「農大祭」を平成26年12月6日(土)午前10時から午後2時まで、農業大学校園崎キャンパスにおいて開催しました。

開始1時間後には初雪が舞い始めるあいにくの天気でしたが、多くの方々にお越しいただきました。例年人気である農畜産物販売、専攻バザーも好評でした。

3年目となる東北農業応援ブースでは、東北地方の各農大(岩手県、宮城県、福島県)から各3名の学生をお招きし、現在の東北の復興状況を報告するちらしの配布を行いました。学生達は各農大で収穫した農産物を元気に声をだして販売していました。また、グレート家康公



グレート家康公「葵」武将隊も東北復興祈願

「葵」武将隊の応援もあり、盛況の中で無事に終了しました。東北農大生をお招きするにあたり学生会の役員が中心となって夏休みから企業等を訪問し、支援金を集める活動を精力的に行っていました。学生にとつては、今後、社会に出ていくうえで貴重な体験になったことと思います。



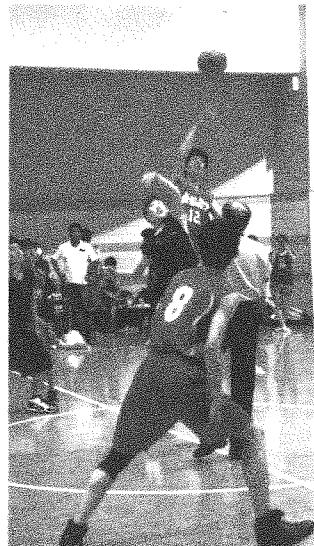
各専攻バザー風景

農大祭でみなさんをお待ちしております

平成27年度は12月5日(土)に農大祭を開催します。今年度は「新農大へのステップアップ―地域とつながる農大祭―」をテーマとし、例年どおり農産物販売、各種バザーなどに取り組みます。そして、愛知県の農業の魅力と大切さを伝えていくとともに、地域の皆様に農業大学校を身近に感じて、楽しんでいただけるよう学生が中心となり準備を進めています。多くのみなさまの来校をお待ちしています。

東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会 (滋賀大会) に参加し、優秀な成績を収める

東海近畿地区9校の農業大学校生が集まるスポーツ大会が滋賀県で5月28日(木)、29日(金)の2日間開催され、本校から88名の学生が参加しました。28日早朝の出発時には、校長より「毎年愛知県は良い成績を収めている。がんばって欲しい」と激励を受けました。



バスケットの試合で頑張る農大生

競技会場は3カ所に分かれ、バスケットボール、卓球、バドミントン、軟式野球、テニス、バレーボールの6種目が開催されました。野球は、全員が優勝を目指して張り切っていました。2回戦で1点の僅差で負け、3位になりました。

できました。個人でも優秀な成績を収めました。また、宿泊ホテルでは専攻や学年を超えて話をしたり、他県学生との交流会に参加したりして、楽しく過ごしていました。各種競技に打ち込む姿や記録写真の撮影に熱心に取り組む学生の姿は輝いており、逞しく感じました。

本校学生の奮闘結果

団体	優勝	卓球、バドミントン
	3位	野球
個人	優勝	卓球W、バドミントンS
	2位	卓球S、バドミントンS
	3位	卓球S

お知らせ

「農大だより」について

農業大学校では開かれた農大を目指して、「農大だより」を毎月発行し、各方面に配布し、本校ホームページにも掲載して広く公開しています。日頃の学習状況や学生の活躍、学校行事など様々な話題を写真とともに掲載しております。同窓会の皆様も是非ご覧ください。

本校ホームページ

「<http://www.pref.aichi.jp/noudai/index.html>」

中の「H27 農大だより」をご覧ください。また、「愛知農大」で検索しても、ほとんどの場合に本校ホームページを見ることができます。

**礼儀正しさを褒められた
平成26年度海外派遣研修
引率を終えて**

農学科2年生82名が平成27年1月24日から1月31日(8日間)までの予定で、海外派遣研修を実施しました。中部国際空港からの出発に際し、何回となく事前説明会を開催し念を押したにもかかわらず、パスポートを忘れてきた学生がおりましたが、何とか間に合いシンガポールを経由しシドニー国際空港に無事到着しました。併せて15時間ほどのフライトでしたが機内で体調不良になった学生もおらず、シドニー到着後、半日の市内研修時に昼食で食べたビッグなハ



ホストファミリーとの対面式での集合写真

ンバーガーや真夏の日差しの強さに驚いていました。その日の午後には、空港からバスで1時間ほどのホークスベリー市でホストファミリーと対面し3泊4日のホームステイを開始しました。学生は3人から6人のグループに別れて車に乗り込み、会場を後にしました。ホストファミリーとの対面では気さくにハイタッチをする学生もあり、和気あいあいの雰囲気の中で進められました。次の日からは、あいにくの雨が3日間も続き、オーストラリア建国記念日に大雨が降ったのは50年ぶりとのことでした。シ



酪農家でのファームステイ

ドニー近郊では雨水を生活や農業に利用しているため、現地の方々には恵みの雨となったようです(いつもはシャワー時間を3分から5分だけに区切られる生活だそうです)。先生が各ホームステイ先を訪問した際には、学生達は小雨の中、レタスの収穫やブドウ畑や農場の整備などをしていました。酪農家にホームステイした女子学生達は角が生えた牛の取扱いに困っていたため、通訳を通して現地の管理方法を説明してもらい、日本との違いを実感していました。雨により野外活動は思うようにできませんでしたが、ホームステイ先とのコミュニケーションや食事を楽しみ、日本では味わえない貴重な体験になりました。オーストラリアは日本と比較して食事の量が大変多く、女子のグループでは量を減らしてほしいとの要望が出ました。ホストファミリーとの解散式では、各々写真を撮り合って別れを惜しんでいました。

5日目と6日目には野菜、果樹、花、乳牛農家や卸売市場、日本酒製造会社など農業関連施設の視察を行いました。熱心にメモを取りながら説明を受ける

学生もいたため、説明された農家の方々の評判が大変良く、しっかりとオーストラリアの農業について学ぶことができました。

7日目の最終日は、自由行動で気のあつた学生同士でグループを組み、シドニー市内の散策に出かけました。行動的な学生は、半日の時間を有効に利用し、事前に計画していた観光地を巡っていました。他の学生は、添乗員とともに市内散策に出かけ、シドニー観光を楽しんでいました。

帰路では、海外派遣研修を実施して以来初めてのトラブルに遭遇しました。予定の飛行機がエンジントラブルで出発できず、その結果、シンガポールに1日から2日間余分に滞在す



野菜農家での農業体験



フレミントン卸売市場視察

ることになったのです。学生達は豪華なホテルに泊まることができ、おまけにシンガポール観光を満喫できて楽しい思い出になったようでした。

それぞれの学生は、御家族や添乗員、先生などたくさんの方々のおかげで研修を無事に修了できたことを実感し、オーストラリアでの生活、農業に触れられて、今までにない貴重な経験になったことと思います。また、帰国後、あるホストファミリーから、「10年来ホストファミリーをしているが、今回受け入れた学生ほど礼儀正しく優秀な学生はいなかった」とのお褒めの手紙が農大に届き、先生一同、学生達を大変誇らしく思いました。